

取組事例① 道の駅「もんじゅ」を拠点とした特産品開発と交流人口の拡大

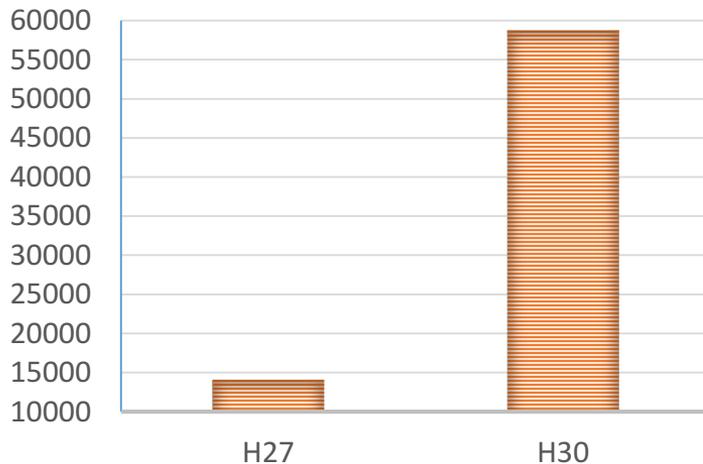
(上ノ国町)

道の駅「もんじゅ」の運営委託先である(株)上ノ国町観光振興公社を地域商社化し、高付加価値商品の開発及び交流人口拡大・移住定住の促進により、活力あるまちづくりを進める。

関連数値目標・KPI

	基準値 (H26)	実績 (H30)	目標値 (R元)	進捗率 (%)
観光入込客数 (人増)	115,400	92,647	13,000	712.7

道の駅「もんじゅ」を
平成30年4月にリニューアルオープン！



農水産物など特産品の
販売金額が大幅に増加↑↑
H27: 14,123千円 → H30: 58,805千円
※道の駅「もんじゅ」1階売店部分の販売額

取組事例

道の駅「もんじゅ」の施設改修

- ・ 移住・定住窓口や観光協会等を道の駅に併設し窓口をワンストップ化
- ・ 郷土食づくり等の観光体験施設を併設
- ・ 農産物等を活用したスイーツ開発工房「菓処あまのがわ」を新設
- ・ 農水産物等の特産品を活用した加工品の開発工房を新設
- ・ 2階レストラン「グルメブティックもんじゅ」のリニューアル など

地元の原材料を活用した特産品の開発・販売促進

- ・ 地元の食材を活用したメニューを道の駅で販売
〔ゴジラ海老のラー油・バター・ふりかけ
いちごのジュース・ソフトクリーム
てっくい天井 など〕
- ・ 大田区民フェスタへの出店等により特産品と観光のPR実施
- ・ 特産品のインターネット販売の実施 など



取組事例② 特産品のウニを活用した新たな観光コンテンツの創出

(利尻町)

利尻町では、地域資源である利尻産のウニや昆布を活用し、地域住民を主体としたおもてなし体験事業を実施することで、交流人口の増加を図っている。

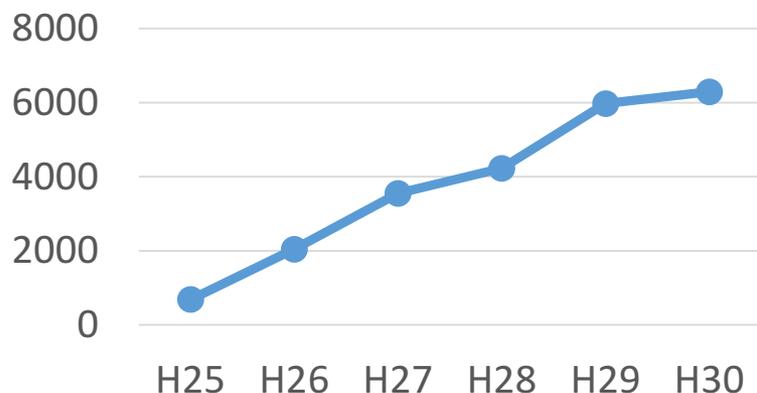
関連数値目標・KPI ※代表的なものを記載

	基準値 (H26)	実績 (H30)	目標値 (R元)	進捗率 (%)
町内宿泊客 延べ数(人)	22,800	29,000	30,000	96.7%
移住者数 (人)	0	25	20	125%

取組の推進体制

利尻町、観光協会、地元漁師団体、地域住民らの協力により官民連携での受入体制を整備

観光地点の体験交流者数の状況



体験交流者数は、開始時(H25)の約9倍に増加

取組事例 まちに新しい人の流れをつくる

ウニ・昆布等の体験型観光施設の整備

○主な取組

- ・ 廃船を活用して、地元漁師さんと同じ方法でウニ採りを体験できるアクティビティを創出
- ・ 地元住民・漁師の日常に触れ合う交流の場を確保

○主な成果

体験交流者数
683名 (H25) → 6,293名 (H30)



ウニを活用した観光PRやガイドツアーの実施

○主な取組

- ・ 利尻産ウニの魅力を知りやすく伝えるパンフレット「ウニっこ図鑑」やプロモーション短編動画を制作
- ・ 地元漁師団体協力による、「ウニ魅力発見ツアー」を実施

○主な成果

- ・ 全天候型の新たな観光コンテンツの創出
- ・ 9月～11月で、約400名が参加



取組事例③ 交流・関係人口の増加による移住・定住人口の拡大促進

(南幌町)

南幌町では、札幌近郊に位置する地理的利便性と基幹産業である農業を生かしたまちづくりに取り組み、食育推進をはじめ、子育て世代を対象に各種サポート事業を展開し交流人口の拡大を図るとともに、スマート農業の導入環境を整備することで基幹産業である農業の担い手確保・育成を促進し、持続可能な都市近郊型農村の確立を目指している。

関連数値目標・KPI ※代表的なものを記載

KPI	実績 (H29)	目標値 (R元)	達成率 (%)
みどり野団地販売件数	4件	10件	40.0%
農業研修生及び新規就農者延べ人数	14人	12人	116.7%

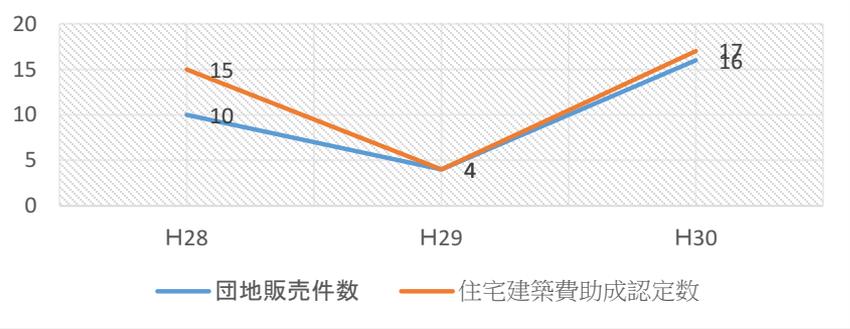
取組事例

子育て世代の住宅団地販売促進と農業の担い手確保推進

さっぽろ連携中枢都市圏との事業連携

南幌町では、連携中枢都市の要件を備える札幌市を中心に、小樽市・岩見沢市・江別市・千歳市・恵庭市・北広島市・石狩市・当別町・新篠津村・長沼町との連携中枢都市形成に係る連携協約を締結し、各種事業の連携を図る。

みどり野団地販売状況と住宅建築費助成認定数



各種施策の連携効果により南幌町の知名度が向上し、みどり野団地販売件数と住宅建築費助成の利用が伸びてきている

子育て世代への支援策の充実

- 主な取組
 - ・子育て世代への住宅建築費助成(最大200万円)
 - ・子育て支援米の支給(中学生まで1人10kg)
 - ・小学生の医療費無料
 - ・学校給食の主食費用全額補助(米・麺・パン)
 - ・中学生国際留学プログラムの実施
 - ・高校生通学費助成(月額最大1万円)

- 主な成果
 - 住宅団地販売実績は4件、各種支援策と知名度向上PRにより移住は増加傾向にある。



持続可能な都市近郊型農村の促進

- 主な取組
 - ・GPS基地局設置事業(RTK基地局の設置)
 - ・新規就農促進事業(親元就農者への給付金支給)
 - ・農業基盤整備事業(区画整理、暗渠排水整備等)

- 主な成果
 - RTK基地局設置(1基)によるGPS農機利用者1件(利用申込み14件、随時利用開始)と農業基盤整備事業の継続による圃場の大区画化、透排水性の向上により生産性が各段に上昇している。親元就農者への給付金支給により、新卒、Uターン等の親元就農(5件)が増加している。



取組事例④ 転入者の住環境整備と互産互生の取組により転入超過を実現 (豊頃町)

豊頃町では、近年「ジュエリーアイス」による交流人口が急増しているほか、転入者のための住環境整備や道外自治体との互産互生の取組などにより、転入者の増加や特産品の販路拡大が図られている。

平成30年度 ジュエリーアイス
観光入込客数 13,800人以上



人口: 3,170人
前年比: -12
社会増減: +8
住民基本台帳2019年1月1日

関連KPI

KPI	基準値 (H26)	実績 (H30)	目標値 (R元)	進捗率 (%)
賃貸住宅への町外からの入居者数(戸)	0	14	8	175%
互産互生推進による連携自治体数	0	11	7	157%

取組事例

定住推進賃貸住宅建設事業

住環境整備により、町外からの転入者の定住化を推進

- 町内の賃貸住宅を建設する者に対して必要な助成措置
- 建設戸数 H27~H30
世帯向 4棟19戸 単身用 7棟28戸
- ※上記の他、町外通勤者助成事業も実施
町外で働く方への助成
- 月7,000円分の町内商品券を交付



互産互生推進事業

「報徳」の繋がりがある静岡県掛川市の小売業店舗との「互産互生」の関係構築などを「全国報徳研究市町村」の自治体の小売業店舗に拡大することによって、お互いを活かすような全国的な関係構築を推進(地方創生推進交付金事業)

- 地方創生拠点ココロコテラスのオープン
- 互産互生関係構築自治体数 11自治体



若者の活力を活かした総合プロモーション事業

将来にわたる地域の活性化を実現するためには、地方創生における事業のすべての基礎となる「人材」を確保することが重要であるため、地域の若者を育成し地方創生人材を確保

- 若者の活力を活かしたプロモーション
- 豊頃町モニターツアーの実施
- 物産イベントへの参加



取組事例⑤ 地域経済のプラス成長と雇用の創出

(釧路市)

釧路市では、地域資源を活かした域内循環や外貨の獲得など産業のポテンシャルを高めることで、地域経済のプラス成長を図ることを目標に、企業や事業者の自助努力による経営革新、創業、新陳代謝の促進及び国内外への事業展開の取組を進めている。また、地域経済の多様な担い手を生み出すための環境整備として、女性や若年者などの人材育成を図っている。

関連数値目標・KPI

	基準値 (H26)	実績 (H30)	目標値 (R1)	進捗率 (%)
新規創業者数(累計)	0件	178件	125件	142.4%
創業支援者数(累計)	0人	748人	1300人	57.5%

支援事例

港町釧路の骨なし真鱈 「たらまんま」

- k-Bizの提案から商品化
- 離乳食向けが主なターゲット
- 地元水産加工業者、紙店、管理栄養士によるコラボ商品
- クラウドファンディングは開始10時間で目標額達成



地域の価値 (釧路の水産ブランド)

×

企業の技術 (目利き・骨皮の除去技術)

×

都市圏ファミリー層のニーズ (共働き・健康志向)

取組事例

地域経済を支える中小企業・小規模事業者の支援

○主な取組

富士市産業支援センターf-Bizをモデルに「釧路市ビジネスサポートセンターk-Biz」をオープン。全国公募で110人から選ばれたセンター長を中心に、個別経営相談を通じた企業の価値や強みの発見と具体的な売上増加策の提案による伴走支援を展開。地域の支援機関・金融機関・行政の連携により運営。



○主な成果

オープン後1年間で相談件数1,256件。(うち「創業」8.8%)
具体的な売上増加や創業につながる事例も創出。

地域や企業が持つ価値や強み(資源、技術、人材等)を、ニーズに裏打ちされた「マーケットイン」の発想で、売れる商品やサービスとして磨き上げることで、地域経済の担い手・雇用の受け皿である中小企業の「稼ぐ力」を強化し、地域経済のプラス成長と雇用の創出につなげる。

取組事例⑥ 多文化共生のまちづくりと地域特性を活かした教育の取組 (倶知安町)

倶知安町では、外国人観光客の増加や海外投資によるコンドミニアム等の建設によって、急速な国際化が進むなか、国際リゾート地として多文化共生のまちづくりを進めていくために町民の英語力向上に向けた英語研修事業を実施している。

関連数値目標・KPI

数値目標	基準値 (H26)	実績 (H29)	目標値 (R元)	進捗率 (%)
観光客入込数 (万人)	154	161	170	94.7
外国人観光客宿泊延数(万人)	29	43	35	122.9

取組の推進体制

倶知安町では、役場内に組織された「倶知安町まち・ひと・しごと創生推進本部会議」に加え、産学官金労言及び住民代表からなる「倶知安町まち・ひと・しごと創生有識者会議」を設置し、総合戦略を進めている。

町における外国人人口状況

この10年間の倶知安町の人口は、約1万6千人程度でおおむね横ばい傾向であり、日本人は微減傾向である一方、外国人の割合は増加している。最も外国籍住民が多くなる1月は、人口の10%以上が外国籍住民となる。



(倶知安町役場資料より作成)

取組事例

～英語への理解向上～

町民向け英語「ことばでつながる」まちづくり事業

○主な取組

町民を対象に一般初級英語にフォーカスし、「聞く」「話す」を研修で、「読む」「書く」を宿題で行う実践トレーニングプログラム。



○主な成果

平成29年度では164人が研修に受講。「大変有意義だった」「有意義だった」、英語への理解が「大変深まった」「深まった」との回答が9割を超えた。受講者はH26 (48人) からH29 (164人) へと増加している。

小中高の英語連携事業「イングリッシュデイキャンプ」

○主な取組

小中高生を対象に、夏・冬の年2回、英語でのプレゼンテーションなどの活動を通して、英会話への関心を高め、楽しく英語に親しむための入口として実施するプログラム。



○主な成果

異年齢間での交流や、オールイングリッシュによる体験活動を通じて、「生きた英語」を体験できるとして、定員を超える申込みがある。

幅広い世代に向けた英語への理解向上のための事業によって、町民の英語への関心、理解が高まってきている。